

第48回医療功労賞受賞

船橋 正夫 氏

長年、地域の医療や住民の健康に貢献してきた人たちをたたえる『第48回府医療功労賞』（読売新聞社主催、厚生労働省、日本テレビ放送網後援、損保ジャパン日本興亜協賛）を本会元理事の船橋正夫氏が受賞されました。令和2年1月31日に読売新聞大阪本社（大阪市北区）にて表彰式が行われました。

主たる受賞理由

37年間に亘り大阪府立病院（現：大阪急性期・総合医療センター）に奉職し、デジタル化を推進し、大幅な患者被ばく線量低減を目的としてデジタル画像機器の臨床導入を行い、病院レベルでは世界初となるデジタル画像装置による全面的な撮影システムを構築され、その方法論を学会発表することでデジタル化時代の幕を開ける先駆者となったことである。12年間、本会の地区幹事・理事としても活躍し、東日本大震災の折には福島原発事故の影響について、被災地である仙台市などで放射線の危険と医療被ばくの安全性について市民公開講座にて講演を行い、国民の不安に向き合った活動を行った。

